

まつり創造

街が舞う



北海道の初夏を彩る風物詩として定着した「YOSAKOIソーラン祭り」。これは、高知県の「よさこい祭り」と、北海道に古くから歌い継がれてきた民謡「ソーラン節」とが融合して生まれた、新しい祭り文化です。

「YOSAKOIソーラン祭り」は、札幌の中心部にある大通公園をはじめとして、札幌市内各区の目抜き通りを舞台とした、参加型の祭りです。祭りのルールは二つしかありません。「手に鳴子を持って踊ること」、そして「曲のどこかにソーラン節をワン・フレーズ以上取り入れること」です。参加するチームそれぞれが、衣裳、音楽、振付を自由に発想し踊る。もちろん、参加するにあたってかかる費用はすべて自分達でまかさないです。この自主自立したスタイルが「YOSAKOIソーラン祭り」の特徴であり、また一つとして同じチームが存在しないからこそ、独特のエンターテインメント性を醸成してきたのだといえます。年末の「紅白歌合戦」では、日本を代表する祭りのひとつとしてこの「祭り」が紹介され、2月の「さっぽろ雪まつり」では、初めて「YOSAKOIソーラン」の大雪像が設置されました。

この祭りが誕生するきっかけは、1991年、当時北海道大学2年生だった私が、たまに訪れた高知で接した「よさこい祭り」でした。私は生き生きとエネルギーに踊る年代の若者たちに圧倒され、鳥肌が立つほどの感動を覚えたのです。

こんな祭りが北海道にあつたら……。大学に戻った私は、自分たちの手で、誰もが参加できる「祭り」を、という夢を実現しよう

と、実行委員会を結成しました。北海道の学生たちが口コミで100名以上集まり、社会に挑戦していきました。行政や警察への協力依頼、そして許可申請に対して返ってくる答えは「無理だ」「ダメだ」の連続。それでも私は夢を捨てずに粘り抜き、全力でぶつかっていきました。

皆といっしょに創造する喜び、自らが主役となって注目を集める快感が、参加者の心をたちまちとらえます。祭りは爆発的な勢いで、その規模を拡大していきました。学校、職場、地域、そして仲間同士でチームが生まれ、幼児からお年寄りまでが、祭りに向けて練習に汗を流します。北海道内各市町村で踊りのチームが結成され、地元でも地域活性化の核として活躍します。札幌市内の商店街は祭りを積極的に誘致し、自主的に祭りに参加してくれるようになりました。

この祭りでは、当初から運営のすべてを道内の大学生で構成する実行委員会が行い、資金集めから会場の確保、当日の運営管理に至るまで、経験のないことにも体当たりで取り組みながら回を重ねてきました。第1回は観客20万人、踊り子1,000人×10チームによる開催でした。以降、年を追うことに規模が拡大してきたのも、学生たちの若々しい感性あふれる自由な気風が、多くの人々に感動を与えてきたからであると思っています。

祭りの成長にともない、運営母体は三度の組織変更を行い、1998年から、YOSAKOIソーラン祭り組織委員会と改名、学生実行委員会だけでなく、地元の幅広い層の人たちが参画し、学生達をサポートする形で運営主体を担うこととなりました。この祭りを



支えている一番大切なものは、メインステージの大通西8丁目会場と審査に関わる、学生実行委員会の学生たちです。審査と西8丁目ステージ会場運営が「YOSAKOIソーラン祭り」の要であり、この部分を学生たちが担っていることこそ、イベントの生命線であると思います。

節目の10年目を迎えた「第10回YOSAKOIソーラン祭り」では、全道187市町村、全国32都府県より、408チーム、約4万1、000人のご参加を頂き、札幌市内33会場において5日間延べ201万3、000人の観客動員を数え、過去最高の盛り上がりとなりました。そして、今年も、札幌ドーム「HIROBA」のオープンとも重なり、「札幌ドームオープニングシリーズ 10周年記念YOSAKOIソーラン祭り」を開催いたしました。NHKでも全国中継されたこのイベントは、通常の興行的なこけら落としとは異なり、北海道内各市町村に所在するすべてのチームから結集した約7、000人のボランティアが演舞し、開催2日間ともほぼ満席の観客約5万7、000人を迎え、盛大な一大創作イベントとなりました。従来の「踊る」という要素に、「魅せる」ことを意識するという要素が加わり、そして、500名、1、000名単位という大集団での演舞が出来たことにより、これからの「YOSAKOIソーラン」に新たな可能性を見出すことができました。

全国各地においても、地域性を生かした「YOSAKOI」の開催は年々増加し、現在「YOSAKOI」チームは、全国で約5、000

0、踊り子にして約50万人。さらに友人、仲間、観客などその関係者までも含めると「よさこい交流人口」は500万人にのぼると考えられています。

そのため、これからは「yosonet」という、インターネットでの展開を考えております。全国各地に広がるYOSAKOIソーランのネットワークを活用し、まだ流通に乗っていない北海道の特産物、名産物などの販売を、ネット上で行います。これは顔の見えない従来のインターネット取引とは異なり、YOSAKOIソーランという信頼の上に成り立つもので、これからのインターネット社会を見据えると、必ず大きな成果をあげていくものと思われれます。顔の見える関係のネットコミュニケーションとしては、大規模の交流が期待でき、計り知れない波及効果を生むものと考えています。

YOSAKOIソーラン祭りには、その地域によつて異なる個性やアイデアが見られます。漁業、農業、観光業など基幹産業の違い、そして気候や風土の違い。そして、その土地に住む人々の気質の違い。踊りという表現はまさしく創作です。これらの踊りを次の世代に継承させていくことは、大変意義深いことであると思います。これはもはや経済波及効果とか、いくら費用がかかるかといった範疇の話ではなく、北海道のダイナミックなエネルギーを全国に発信する貴重な場であると、私は思います。

YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

専務理事 長谷川 岳

